



愛猫との出会いと、命の大切さを書いた動物愛護作文で、県動物保護協会県町村会長賞を受賞した

こうた  
**勝亦 恒太**さん

(大淵中学校2年)



**夏** 休みの宿題で、作文の課題が幾つか出た中、勝亦さんは真っ先に動物愛護作文を選び、飼った猫「たんたん」のことを書きました。たんたんは、三年前、足に大けがをしているところを、勝亦さんたち兄妹が発見されました。勝亦さんは、見つけたとき、けがの状態がひどくて、正直「気持ち悪い」と思いました。でも「僕たちが助けないと死んでしまう」と考えたら、とても放つてはおけませんでした。すぐに家に連れて帰り、病院で手術をして家で育てるか、保健所に預けるかを家族で話し合いました。僕たちの強い願いが通じて、飼うことになりました。



勝亦家の一員として幸せに暮らす、「たんたん」

たが、そのとき初めて保健所での動物の処分方法を知って、ショックで言葉が出ませんでした。動物を飼うからには、最後まで責任を持って育てなければならぬと思います。僕は、後ろ足を切断する手術を受けたたんたんを、歩けなくなってもずっと面倒を見ようと、最初から決めていました。この決断に、自分でも驚きました」と、振り返ります。

家族の一員となったたんたんは、一家の愛情を受けてみるみる回復。三本の足でうまくバランスをとり、今では走れるまでになりました。

「たんたんが力強く生きる姿を見て、すごいなあと思う。動物と人間の命の重さは、同じなんだ」と実感しました。動物の気持ちを考えながら、感じたままを書いた作文が認められて、僕の思いが伝わったんだと思い、とてもうれしかったです」と、優しい笑顔で話してくれました。

市長への手紙から

危険を感じる交差点の安全対策を

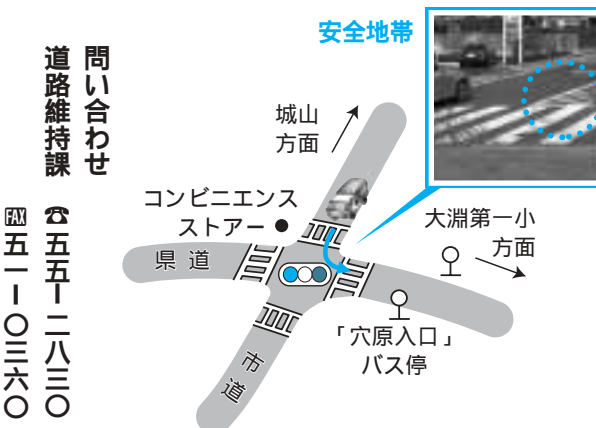


「市長への手紙」から

大淵の「穴原入口」バス停西側の交差点について、意見があります。交差点を北から来て左折する車が、急な角度を曲がるため、信号機つきの横断歩道があっても、死角になり渡る人が見えづらく、危険だと思います。

【市長からの回答】

ご意見ありがとうございます。横断歩道に関しては、警察署の管轄のため、早速、市と警察署とで現場を調査しました。ご意見のように横断歩道を東へ移動させると、歩行者の死角が増し、左折した車が東に向かって直線で加速するため、かえって危険であると考えられます。



市としては、安全確保のため、市道の北側に「歩行者注意」の路面表示と、交差点の角に安全地帯を設置しました。ご理解をお願いします。

今回は、市長への手紙に寄せられたご意見の中から、道路・交差点の交通安全対策についてのご意見を紹介します。